



心・言葉のキャッチボールをしていこう



相手の胸元に向けて、ボールを投げ込む。相手から投げられたボールを、確実にキャッチする。キャッチボールの基本は、投げ、そして捕ることです。つまり、キャッチボールは、一人でするものではなく、相手がいって初めて成立します。単純なことのようですが、慣れてくるまで、これがなかなかできないものです。ちょっと逸れるくらいならまだしも、相手のグラブがまったく届かないところにボールが飛んでいき、とんでもない方向に消えていくことも珍しくありません。

また、正面に飛んできたボールを受け取ったつもりが、ポロリ、グラブから漏れることもあります。もし、まともに投げられず、まともに捕れずにいると、キャッチボールは成立しないどころか、あげくは相手を怒り、なじり始め、ケンカになってしまいます。テニスや卓球は、ラリーを続けるのが目的である場合を別として、相手をいかに出し抜き、相手のいないところに打ち返すというスポーツです。これは、相手を思いやるという部類からはかけ離れています。



「心のキャッチボール」や「言葉のキャッチボール」は、相手が捕りやすいように投げ、相手から投げられたものを確実に受け止めることです。まさに、『心や言葉』が、相手を思いやるようにして人と人の間を交換されるのです。自分だけが満足する言葉を吐けばよいというものではありません。相手が受けることができないような言葉を言い放っても、会話にはなりません。会話を続けるには、相手の心を思いやった発言や言い回しも必要になります。

それができたら、また相手も、こちらが受け止めやすい言葉を返してくれるようになります。これが、コミュニケーション（人とのかわり合い）です。そうすることで『出会い』とか、『ふれ合い』とかを表現することもできるようになってきます。

ときに、捕りにくいボールが飛んでくるかもしれません。だからといって、すぐさま相手を非難しては、キャッチボールは成立しません。そして、怒って仕返しのように、こちらもわざと暴投をするとどうなるでしょうか。そんなことをしたら、相手もまた怒って、キャッチボールが終わってしまいます。そうならないためには、いくら

かは我慢して、相手の失敗にも、「ドンマイ」と言って、気持ちのいいボールを返してあげることが大切です。また、投げる時に「ごめん」と素直に言うってあげることも大変重要です。投げる方も受ける方も心掛け一つで随分変わります。



しかし、変な球を捕るのは疲れます。バウンドが変わって、体に当たってしまうこともあります。それたボールを取りに行くのも大変です。だから、キャッチボールなんか、最初からしたくない…。そんな人が多くなるとどうなるでしょうか。関わり合いのない、自分中心の世界になってしまいます。

本校の、「あい」のある、「あい」を大切にしている学校に向けこの関わり合うことを大切にしています。そのためには、心・言葉のキャッチボールをしていい汗をかきましょう。多少自分が迷惑を受けることがあるかもしれませんが、時には自分もまた、相手の捕りにくいボールを投げたりするものです。『おたがいさま』という気持ちで『言葉に心を込めて』やりとりし、互いに許し合う気持ちが芽生え、実を結ぶ関係を作っていきたいです。それが本校のめざす子どもたちの姿です。

そのためには、わたしたち、大人からもキャッチボールをしていきたいです。

「あい」のある学校の風景



【1・2年】校内探検



【5・6年】ALTとの会話



【6年】ミシンボランティア



【2年】まち探検（保護者）



【全学年】読み聞かせ



【4年】梅ジュース（和歌山県）



【3年】ペア学習(学びあい)



【教職員】救命救急講習

繋ぎあい
学びあい
高めあい
支えあい
I(生命)を大切に

教育活動が少しずつ出来るようになってきました。